

東海地震は大型ヘリコプター CH47 で空中消火

繰返すまい阪神淡路の大失敗
CH47 - 3 機で神戸大火災は 1 % に減災できた
義若 基 減災害活動推進家

“東海地震、政府が活動計画” 2004.6.30

中央防災会議は、“消火部隊は地震から 12 時間後の段階で 3600 人、720 部隊の派遣が可能。火事を全て消すには、1 万 5 0 0 0 部隊が必要とされている。消防庁は「全国で派遣可能なのは 2821 部隊しかなく、人命に危険を及ぼす火事を優先的に消すなど消火戦略が必要」としている。



これが明日起こるかも分からぬ東海地震に対する中央防災会議の消火活動計画、消火部隊は 12 時間後の段階で 3600 人が派遣可能 - (火災現場に居るのではない、これから、陸上交通が大混乱時に火災現場に派遣) - まるで、燃え尽きた火事の焼け後始末。
中央防災会議の権威者・識者が何を狙っているのか理解に苦しむ。

- ・火事を消すには水が要る。
- ・この水を、何処から、何んで、大量・迅速に輸送するか？
- ・この水を、如何なる手段で、的確に投水するのか？
- ・その、要員・機材を、的確・迅速に機能させる為には、何処に配備するか？

大型ヘリコプター CH47 は、1 機 1 時間に 160 トン (木造家屋火災 8 軒消火に必要な水量) の水を搬送し投下する。

阪神淡路大震災、地震発生 1 時間半後、CH47 - 3 機が海水利用バケツ消火を 2 時間実施していれば、全焼約 7000 棟にも及んだ神戸市の火災被害は、1 % 以下、48 軒程度に減災出来た筈。阪神淡路大震災時、ヘリコプターの空中消火を止めたのは大失敗。
阪神淡路大震災の誤を二度と繰り返してはならない。

因みに、
1998 年ノースリッジ地震サンフェルナンド北部火災は、僅か 5 時間余、57 トンの投水で鎮火、2002 年岐阜の山火事、ヘリ 12 機で 557 トン、内 CH47 は 1 機で 140 トンの水を投下制圧。

大震災時、火災被害の減少は、地震発生 1 時間後開始の大型ヘリコプターによる初期消火、これが出来るのは日本では CH47 ヘリコプターしかない。

陸自の CH47 - 10 機を中核とする、中部大震災対処ヘリコプター隊を緊急・臨時編成し、開発、訓練費をつけて、名古屋空港、取り合えず、インフラ整備完了まで明野の陸自航空学校へ。正式編成、所属機関等は追々考えれば良い。
明日起こるかも分からぬ大震災起こってからでは間に合わない。

ソ連が崩壊し、イラクの復興に陸自が派遣されるようになった今日、
日本国民の多くの生命財産を守る為に、この程度の事が実行出来ない訳が無い。